

通いの場参加者における二次予防参加者割合と参加理由の特徴

－ 7市町の比較から－

研究分担者 加藤清人（平成医療短期大学 リハビリテーション学科 教授）
研究代表者 竹田徳則（星城大学 リハビリテーション学部 教授）
研究協力者 林 尊弘（星城大学 リハビリテーション学部 助教）
研究分担者 近藤克則（千葉大学 予防医学センター 環境健康学研究部門 教授）
研究分担者 平井 寛（山梨大学大学院総合研究部生命環境学域 生命環境学系
地域社会システム学 准教授）
研究分担者 鄭 丞媛（国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部 研究員）

研究要旨

本研究では、7市町における通いの場の参加者のうち、二次予防事業対象者がどれくらいの割合みられるのか、その割合が多い市町と少ない市町の参加理由の特徴について検討することを目的とした。日本老年学的評価研究（JAGES）プロジェクト参加7市町の通いの場109箇所の参加者3,305人のうち2,983人の回答を得た（回収率90.3%）。そのうち、年齢が65歳以上の2,637人を分析対象とした。調査票より基本チェックリスト項目（生活機能、運動機能、栄養状態、口腔機能）、通いの場への参加理由14項目を用いた。7市町別における二次予防参加者の割合と参加理由についてクロス集計にて分析した。その結果、7市町における二次予防参加者の割合は、最も多い市町3.4%～最も少ない市町0.2%と3.2%ポイントの差があった。また、二次予防参加者の割合が多い市町と少ない市町の参加理由を比較したところ、「気楽な気持ちで参加できるから」、「楽しいから」、「新しい仲間ができるから」、「知人・友人と会えるから」の理由がどの市町も上位だった。勧誘方法は、二次予防参加者割合の多い市町ほど「友人・知人」が誘うことで通いの場に参加していた。

7市町間における通いの場参加者のなかには、二次予防参加者の割合が3.4%～0.2%の差が確認できた。また、二次予防参加者の割合が多い市町ほど「友人・知人」の誘いがきっかけで参加に繋がっていたことは、勧誘者を考慮した取り組みをすることがハイリスク者の参加者増加が期待できると考えられる。

A. 研究目的

厚生労働省は、従来のハイリスクアプローチによる介護予防事業において、参加率が0.8%¹⁾と低調で、ポピュレーションアプローチによる一次予防事業の強化を打ち出している。そのなかで、地域づくりによる介護予防を推

進する上で、住民運営の通いの場の充実および、健康な高齢者に加え、要介護リスク者（二次予防事業対象者）の参加を促進することが期待されている²⁾。筆者らは、7市町の通いの場への一次予防参加者2,983人を対象とした分析において、二次予防対象者が1,535人

(1.5%)含まれていたことを報告した³⁾。しかし、各市町によって二次予防対象者がどれくらいの割合含まれているかまでは検討されていない。また、二次予防対象者が多く参加している市町の特徴を明らかにすることができれば介護予防事業に活用する意義は高い。

そこで本研究では、7市町における通いの場の参加者のうち、要介護リスク者(二次予防事業対象者)がどれくらいの割合みられるのか、また参加理由に特徴がみられるのかについて検討することを目的とした。

B. 研究方法

1. 用いたデータ

日本老年学的評価研究(JAGES)プロジェクト参加31市町村のうち、7市町の協力を得て、2015年12月から2016年2月の期間に、通いの場109箇所の参加者3,305名を対象に自記式調査票の配布と回収を行った。その結果、2,983人の回答を得た(回収率90.3%)。

分析対象は、年齢が65歳未満と無回答者の計346人を除外し、2,637人(平均年齢76.5±6.5歳)とした。

2. 用いた指標

調査票より二次予防対象者に関連する変数として、生活機能、運動機能、栄養状態、口腔機能の4項目について基本チェックリストの設問に基づき判定した。参加理由では、「通いの場(サロンなど)」に参加している理由の内容として、以下の14項目(①気楽な気持ちで参加できるから、②楽しいから、③新しい仲間ができるから、④知人・友人と会えるから、⑤幼稚園児や学生に会えるから、⑥健康に良さそうだから、⑦健康によい話し(情報)がきけるから、⑧開催場所が近いから、⑨参加費が安いから、⑩内容が豊富だから、⑪お

茶(コーヒー)おやつが楽しみだから、⑫友人・知人が誘ってくれるから、⑬ボランティアが誘ってくれるから、⑭市町村の職員が誘ってくれるから)より該当するものについて回答を求め分析に用いた。

3. 分析方法

分析方法としては、まず7市町における生活機能、運動機能、栄養状態、口腔機能の各「リスク」者数を算出し、厚生労働省の選定方法⁴⁾(いずれか1つでも該当)に準じ二次予防事業対象者(以下、二次予防参加者)数を求めた。次に二次予防参加者数と平成27年度の厚生労働省データを用い、7市町における二次予防参加者の割合を算出し、比較検討した。さらに、二次予防参加者割合の多い市町と少ない市町における参加理由については、記述統計にて比較検討した。

本研究は、星城大学研究倫理委員会の承認(2015C0013番号)を受け、各自治体との間で定めた個人情報取り扱い事項を遵守したものである。

C. 研究結果

1. 7市町における二次予防参加者割合

今回、分析対象とした7市町における通いの場状況と調査内容について表1に示した。一次予防事業の一環である通いの場「サロン」への二次予防事業対象者の参加割合について、7市町の高齢者人口103,398人に対して、2,637人のうち、二次予防参加者は1,393人(1.3%)であった。7市町間でみると、二次予防参加者の割合が最も多い市町が3.4%~最も少ない市町で0.2%と3.2%ポイントの差がみられた(表1、図1)。

2. 二次予防参加者割合の多い市町と少な

い市町の通いの場参加理由の特徴

二次予防参加者割合が多い2市町と少ない2市町の計4市町における通いの場への参加理由について確認した。その結果、通いの場に参加する理由として、「①気楽な気持ちで参加できるから」、「②楽しいから」、「③新しい仲間ができるから」、「④知人・友人と会えるから」は、すべての市町において上位の理由だった(表2)。

次いで、勧誘の方法として、「⑫友人・知人が誘ってくれるから」、「⑬ボランティアが誘ってくれるから」、「⑭市町村の職員が誘ってくれるから」のそれぞれを市町で比較してみると、「⑫友人・知人が誘ってくれるから」では、二次予防参加者割合の多い市町ほど通いの場に参加していた。また、勧誘別でみると、どの市町においても、「⑭市町村の職員が誘ってくれるから」に比べ「⑫友人・知人が誘ってくれるから」の参加理由が多かった(表2, 図2)

D. 考察・結論

本研究では、一次予防事業である通いの場の参加者のなかに、二次予防事業対象者がどの程度参加し、市町間での違いについて確認した。7市町における通いの場の参加者において、7市町の高齢者人口に対し、二次予防参加者が1.3%含まれており、7市町では、二次予防参加者の割合が最も多い市町が3.4%で最も少ない市町が0.2%と3.2%ポイントの差がみられた。つまり、各市町のポピュレーションアプローチによって、ハイリスク者を取り込めていた市町とそうでない市町が存在していた。このことは、二次予防参加者が多い市町の特徴を明らかにして介入していくことで介護予防に繋がられる可能性を示唆している。そこで、二次予防参加者の多い市町と少ない市町の通いの場参加理由についても確認した。

二次予防参加者割合の多い2市町と少ない

2市町の参加理由について検討した結果、参加理由の上位項目では、「①気楽な気持ちで参加できるから」、「②楽しいから」、「③新しい仲間ができるから」、「④知人・友人と会えるから」は、すべての市町において共通していた。竹田ら⁵⁾は、高齢者の予防事業への参加促進には、楽しみや知り合いの増加などを通じた心理社会面の変化を期待できると指摘している。今回の各市町の結果をみても、同様の結果が得られたと考える。また、通いの場への勧誘の方法では、「⑫友人・知人が誘ってくれるから」において、二次予防参加者割合の多い市町になるほど通いの場に参加していることが明らかになった。そのため、ポピュレーションアプローチによってハイリスク者をより多く取り込むためには、友人・知人が誘うことが参加促進に繋がる可能性があると考えられた。今後、介護予防事業を効果的に進めていくには、各市町を評価していくことが重要である。

E. 研究発表

1. 論文発表
該当なし
2. 学会発表
該当なし

F. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし

G. 文献

- 1) 厚生労働省：平成23年度介護予防事業報告書。 <http://www.mhlw.go.jp/topics/2012/>

02/tp0222-1.html

- 2) 厚生労働省：地域づくりによる介護予防を推進するための手引き。
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000122064.pdf>.
- 3) 加藤清人，竹田徳則，近藤克則．通いの場参加者における要介護リスク者割合の分析：ポピュレーションアプローチによる認知症予防のための社会参加支援の地域介入研究．平成28年度報告書．2017，p. 47-51.
- 4) 厚生労働省：「介護予防マニュアル改訂版」介護予防マニュアル改訂委員会 2012，
http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/d1/tp0501-1_1.pdf.
- 5) 竹田徳則，近藤克則，平井寛．心理社会的因子に着目した認知症予防のための介入研究 - ポピュレーション戦略に基づく介入プログラム理論と中間アウトカム評価 - ：作業療法．2009，28（2），p. 178-186.

表 1. 7市町の通いの場状況と本調査の内訳

	第1号被保険者数*1	参加者実人数*2	通いの場 展開箇所数*2	配布会場数		分析対象者数	二次予防参加者数	
	n	n	n	n	%	n	n	%*3
早川町	573	64	8	2	25.0	17	9	1.6
半田市	27,274	1,577	82	16	19.5	345	212	0.8
常滑市	14,643	1,463	65	34	52.3	851	499	3.4
東海市	24,114	1,250	58	40	69.0	858	409	1.7
大府市	18,701	217	8	4	50.0	96	32	0.2
武豊町	10,171	808	11	11	100.0	423	209	2.1
松浦市	7,922	102	6	2	33.3	47	23	0.3
7市町	103,398	5,481	238	109	45.8	2,637	1,393	1.3

*1 介護保険事業状況報告(暫定)平成27年12月分_保険者別_第1号被保険者数_厚生労働省(平成27年12月末),平成27年度介護保険事業実施状況_知多広域連合(平成28年3月末)より引用

*2 平成27年度介護予防に資する住民運営の通いの場の展開状況(市町村別)_厚生労働省より引用

*3 二次予防参加者割合:二次予防参加者数を第1号被保険者数で除した数で算出

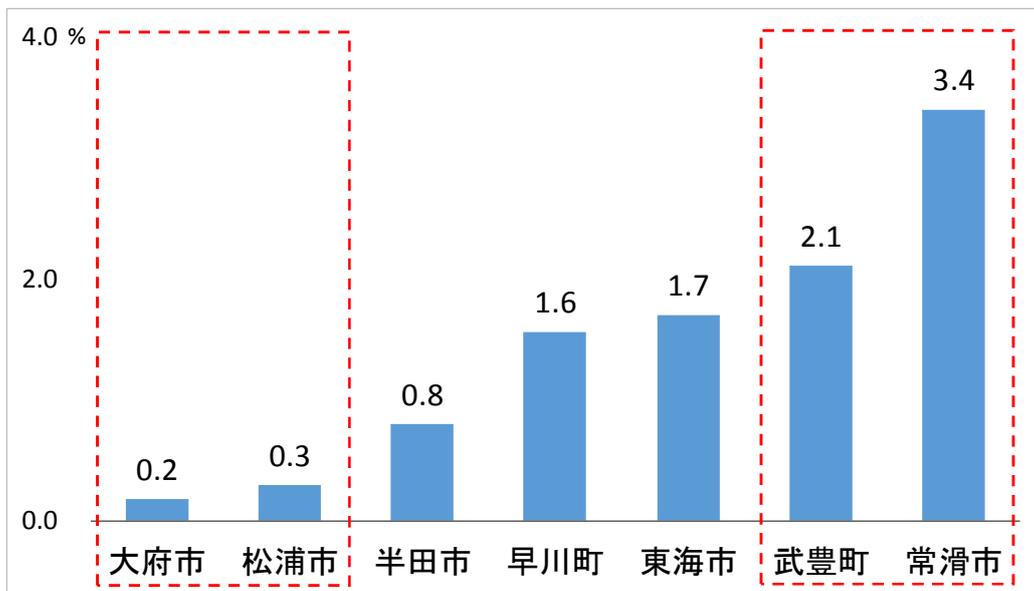


図 1. 7市町における二次予防参加者割合

表 2. 通いの場への参加理由の内訳

	常滑市 (n=851)		武豊町 (n=423)		松浦市 (n=47)		大府市 (n=96)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
①気楽な気持ちで参加できるから	597	70.2	293	69.3	30	63.8	70	72.9
②楽しいから	568	66.7	278	65.7	32	68.1	56	58.3
③新しい仲間ができるから	472	55.5	270	63.8	26	55.3	64	66.7
④知人・友人と会えるから	604	71.0	297	70.2	33	70.2	59	61.5
⑤幼稚園児や学生に会えるから	80	9.4	85	20.1	2	4.3	5	5.2
⑥健康に良さそうだから	532	62.5	280	66.2	22	46.8	39	40.6
⑦健康によい話（情報）が聞けるから	466	54.8	248	58.6	19	40.4	33	34.4
⑧開催場所が近いから	428	50.3	192	45.4	13	27.7	43	44.8
⑨参加費が安いから	416	48.9	216	51.1	8	17.0	22	22.9
⑩内容が豊富だから	291	34.2	137	32.4	7	14.9	7	7.3
⑪お茶・おやつが楽しみだから	362	42.5	209	49.4	6	12.8	40	41.7
⑫友人・知人が誘ってくれるから	400	47.0	162	38.3	17	36.2	24	25.0
⑬ボランティアが誘ってくれるから	199	23.4	83	19.6	14	29.8	9	9.4
⑭市町村の職員が誘ってくれるから	96	11.3	46	10.9	10	21.3	2	2.1

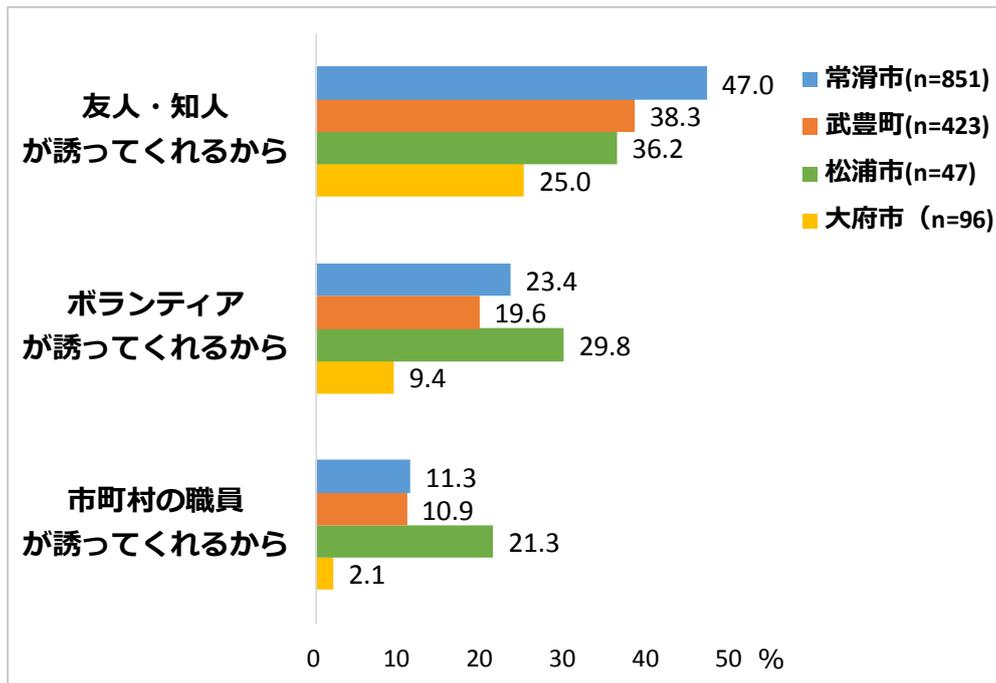


図 2. 勧誘別にみた通いの場への参加理由の比較